

今月の一言

キーワード：真剣勝負

剣道で、面に小手、胸を着けて竹刀で試合をしている間は、いくら真剣にやっているようでも、まだまだ心にスキがある。打たれても死なないし、血も出ないからである。しかしこれが木刀で試合するとなれば、いささが緊張せざるを得ない。打たれば気絶もするし、ケガもする。死ぬこともある。まして真剣勝負ともなれば、一閃が直ちに生命にかかわる。勝つこともあれば、また負けることもあるなどと呑気なことをいってられない。勝つか負けるかどちらか一つ。負ければ生命がとぶ。真剣になるとはこんな姿を言うのである。

人生は真剣勝負である。だからどんな小さな事にでも、生命をかけて真剣にやらなければならない。もちろん窮屈になる必要は少しもない。しかし、長い人生ときには失敗することもあるなどと呑気にかまえてられない。これは失敗したときの慰めのことばで、はじめからこんな気がまえていいわけがない。真剣になるかならないか、その度合いによってその人の人生はきまる。

大切な一生である。尊い人生である。今からでも決しておそくはない。おたがいに心を新たにしていって、真剣勝負のつもりで、日々ののぞみたいものである。

五つの心を大切に！

「はい」「すみません」「おかげさま」「させて頂く」「ありがとう」

2004年11月25日

さいのう とおる

追伸：今年も残すところ、36日。やり残しのないように！